

午後2時00分 開会

【赤嶺委員長】 委員の出席状況について報告する。全員出席である。

日程1 副議長の一般質問について

【赤嶺委員長】 副議長の一般質問について、事務局に説明願う。

【議事係長】 副議長の一般質問については、昨年11月14日に開催された本実行委員会において、委員から、「副議長のことに関しては各派代表者会で決めてもらえばよいのではないか」との発議があり、「実行ができるよう各派代表者会に諮っていただく」ことで合意されたので、各派代表者会に送られた。その後、各派代表者会で議題とされたが、昨年12月12日に開催された各派代表者会において、「従前の流れでは、本来、議会改革実行委員会からの協議結果は、同実行委員会で詳細まで合意した内容が送られてくるものである。そもそも、そういう協議をしてもらうために同実行委員会をあえて設置しているはずであり、同実行委員会で協議していただくことが本来の役割であることから、本件は、同実行委員会に戻し、再度協議していただく」ことで合意されたため、本実行委員会で協議していただくこととなったことを報告する。

【赤嶺委員長】 事務局から報告があったとおり、副議長の一般質問については、詳細について、再度、本実行委員会で協議することとなった。

本件は提案者である公明党が各会派と調整し、詳細な案を作成していただけないかと思うが、意見を伺いたい。

【石田委員】 明文化して、副議長が質問してはいけないということはない中で、これまで議長を補佐することに専念しなければいけないという観点から、配慮はされてきた。してもよいということは、詳細を決めないとできないことなのか私は理解ができていない。例えばこういうことは詳細に決めないといけないという課題意識が共有できていない。

【議事係長】 詳細な内容としては、現在、一般質問を副議長が行ったときに、議長が欠席した場合や、今、一般質問3日間の午後に副議長が仕切っている時間帯があるが、仮にその時間帯に副議長が一般質問を行うこととなったときにどうするかを決めておかないと、実際にそうなった際、どう対応するのが課題として挙がっていた。

【鳥淵委員】 あくまでも、そのときの副議長が行うか行わないかは自身の判断になる。

一般質問もできると決めて、議事の進行に支障を来す場合は、議長の代理であるので、それを最優先する。あとは順番を最終日の最後にするだけでよいのではないか。そんなにきちぎちに決めることでもないと思う。ただ、できることをはっきり示すことが公明党からの意見である。

【赤嶺委員長】 公明党に運用の具体案のたたき台になるものを作成してもらい、それを後日、協議して、判断することでしょうか。

【木村委員】 この件は長い間の慣例で、三役は一般質問をしていないが、してはいけないということではない。現副議長が我が会派に所属しているが、行える余裕はないという意見である。行ってはいけないという言い方ではない。副議長は年々役割が重要になってくるといった意味合いでの意見である。

神奈川県内の全ての議会を把握しているわけではないが、本市議会は一般質問の人数が非常に多いという指摘も前からある。その辺も含めた上で、慣例で今まで三役はしていないが、年4回の中で、1回でも2回でも可能性としてあった場合は、副議長も行える規定にできないかという話は聞いている。本市議会の一般質問の登壇者数がかかなり多いことを頭に入れた上で、この件は最終的に判断すればよいと思う。あえて行わないほうがよいという意見ではない。

【西田委員】 できる規定といっても、それぞれ思い描いていることが違うかもしれない。合意は取れているが、明文化して、文字で確認したほうが、後々、解釈の議論で時間が取られずに済む。きちんとかういう場が開かれているので、公明党に素案をつくっていただいて、何もしなければ、それでよいということで、本実行委員会を通すべきだと思う。

【堀口委員】 鳥淵委員の言ったことに賛同する。どうするかは、そのときの副議長の判断だと思うので、今言ったことを文章にして、それを確認する形でよいと思う。

【中村委員】 本委員会で最終的に決められるのか。例えばここで合意して、細かいことを決めたら、ここで終わりなのか。その後、各派代表者会に回すのではないのか。

【議事係長】 中村委員が述べられたとおりである。

【中村委員】 各派代表者会で最終的に決めるのか、議会運営委員会で決めるのか。

午後2時10分 休憩

午後2時12分 再開

【赤嶺委員長】 昨年１１月１４日の本実行委員会で決定をした、実行ができるように各派代表者会に諮るというものであるが、差し戻しになったので、提案会派である公明党で各会派の案を取りまとめていただき、具体的な運用案を作成していただくことで進めていきたいが、よろしいか。

異議なし

【赤嶺委員長】 それでは、そのように決定する。

日程２ 協議事項について（資料１）

（１）議会だよりのＡ４化について

【赤嶺委員長】 本日は、前回、１２月４日に開催した本委員会において、各会派に持ち帰っていただいた議会だよりのＡ４化について協議をお願いします。

資料１を御覧いただきたい。前々回の本委員会において、私から説明した内容であり、前回の本委員会で配付した議会だよりのＡ４化についての説明文である。

前回、各会派の意見をいただいているが、それぞれの意見を踏まえ、持ち帰っていただいているので、各会派の意見について改めて確認していきたい。

【中村委員】 自民党・新政クラブは、Ａ４化に賛成である。

【鳥渕委員】 公明党も、Ａ４化に賛成である。

【木村委員】 自由クラブは、賛成するが、条件として、現予算の範囲内で行うようにということである。

頂いた資料の中に、タブロイド版の議会だよりを発行している議会はほぼないと書いてあるが、県内の多くがタブロイド版で発行していることを事務局を通じて確認できているので、確認してもらいたい。

【赤嶺委員長】 説明文に書いてあるが、視察調査でも確認しているが、タブロイド版の議会だよりはほぼない。私たちは議会の視察調査で県内には行かない。

【木村委員】 実際、県内では多くがタブロイド版であることを確認したので、意見として付け加えておく。

【赤嶺委員長】 視察調査で確認した先進自治体の議会だよりはほぼ全てＡ４化になって

いることが書いてあると理解していただきたい。

【堀口委員】 日本共産党としては、A4化に全く反対ではないが、なぜA4化にするかといったら、手に取って見ていただきやすい、情報が伝えやすいところが重要なので、形も大事であるが、中身が大事になるかと思う。広報委員会でも、他市の先進事例の調査を事務局で行っている。そういうところの内容を踏まえて、狛江市のものは、見てみると読んでみたくなるので、こういった例を参考にしていけばいいと思う。

なお、狛江市は全戸配布で4万4000部、うち戸別配布が4万3000部、トータルで、制作が約460万円、配付が約190万円の委託である。何をどのように載せるのか議論しながら進めていければいいと思う。

【布瀬委員】 形の議論ではなく、内容の議論が先だと思う。議会だよりを変えるときに、他市の事例としては、どれだけの方が読んでいるのか、どのような形が読みやすいのかを市民調査して、そういった意見を取り入れた中で、内容の議論とともに、形もタブロイド版ではないほうがよいというようにして進めていったほうがよいと思う。A4にすると、枚数を増やさない限りは情報量が減ってしまうとか、できるだけ予算を増やさないようにすると、内容が削減されてしまうのであれば、こういった形にすれば読んでもらえるのかといった議論のほうが形の議論よりも先なのではないかと思う。神奈川ネットワーク運動としては、A4にするのが反対ではないが、まずは形の議論であれば、反対である。

【石田委員】 今までのやり方だと、自治会に加入している世帯にしか届かないので、積極的にプッシュ型で届くことは、情報提供の在り方としては大きいと思う。そこが市民全体に届いていなかったのは課題があったと捉えている。A4化を進めていくのに、大和市の情報の出し方に関しても、これから全戸配布に変わっていくので、これに合わせて一緒に配っていただく形を取れば大きいと思う。デメリットとして、紙面が小さくなるので、その分、情報の掲載量が少なくなっていくので、どこを削るとか、枚数を増やすとか、予算は変えたくないということが出てくる。市議会でどういう議論をしているのかを市民に伝えるのは非常に重要なことで、市議会だよりが担っている価値が強いと思う。ここは予算がどうということではなく、しっかりと質を担保していくことは度外視できないと思うので、内容を詰めながら進めていきたい。虹の会としては、A4化にしていく方向性は賛成である。

【堀合委員】 立憲民主党としては、A4化に賛成である。

【村田委員】 大和維新×iRAISEも、賛成である。

【赤嶺委員長】 各会派から報告があったので、協議願う。

【中村委員】 議会だよりだけが情報発信のツールではない。議会だよりのみで議会の情報を今も全て賄っていない。議会だよりは、一般質問の文字数、ページ数の話に終始するが、そのほかの議論は薄い。委員会での審査の内容は、どういう議論が行われているか分からない。議会だよりは一般質問の発表ではなく、議会審議の発表の場であるので、ホームページ等の別媒体につなげるような役割を議会だよりは持てばよいと思う。自分の一般質問についての情報を詳しく知らせたいのであれば、政務活動費を使ってやればよい。議会だよりで不足しているところはD Xの技術等を使って、ホームページ、動画につなぐようなツールをつくっていけばよい。総合的に考えると、A 4にして手に取りやすいサイズにして、皆さんに発端を知ってもらって、それを契機にさらに深い議論への導入をしっかりと行っていけば、A 4でよいと思う。

【西田委員】 タブロイド版は手に取りにくい。周りで議会だよりを読んでいる人はあまりいない。議会を知っていただくきっかけで、文字数が多過ぎると、それだけで読む気なくなる。文字数を縮小して、Q Rコードでつなぐ方法もできるので、そういった方向で、議会になじみのない人にも親しみやすい構成にしていくほうがよいと考える。

【布瀬委員】 議会だよりで全てのことを書くことは難しい。議会だよりだけが議会のことを伝えるものではない。他市では、動画、ユーチューブ発信をしている。開かれた議会として、議会のことを知らせていくことは、どのようにしていくかの議論が先であり、A 4化にするかどうかではない。タブロイド版はなじみがなく、手に取りにくい。文字数が多いと余計に読まれなくなってしまうと思う。内容をどうしていくかの議論、文字数を少なくするのであれば、それに代わるものを考えていくかの内容の議論があつてこそ、A 4化につながっていくので、形だけの議論であれば反対と申し上げた。別のツールでの発信は必要である。

【中村委員】 A 4にする話と内容は全く切り離された話ではなく、内容も踏まえて、版の変更も議論されていると思う。以前、「広報委員会」は「議会報編集委員会」で、広報委員会は議会だよりを編集するための委員会であったが、それが何で広報委員会という名前に変わったかという、まさにそういうことである。広報のツールは議会報だけではなく、ホームページも重要な役割を担っていることで、ホームページの内容も広報委員会の所管になっている。ホームページと議会だよりと併せて、さらにそのほかの広報ツールも含めて、議会としてどのように情報を発信していこうということを検討するために名前、

組織も変えているので、全然違う話ではない。

ホームページも、より有効に使い、議会だよりは、コストを抑えながらも、必要な情報はそこに盛り込む。足りないことについては、議事録に飛べば全文読める。音声で聞きたいと思えば動画もある。昔のように議会だよりしか議会の広報ツールがなければ、いろいろなものも盛り込みたいとなるが、今はそうではない。議会だよりの比重が軽くなったとしても、ほかのところで十分補えるので、経費も考えて、A4にして、一つの見出し、目次のようにして、そこからさらに深いところを知っていくことができるツールにすればよいと思う。内容がどうでもよいというつもりはない。

【赤嶺委員長】 昨年、議会運営委員会で、岸和田市を視察した。岸和田市議会の議会だよりのづくりがよいと思った。実物ではなく、ホームページからダウンロードしたものを印刷して持ってきた。回覧するので、御覧いただきたい。

【中村委員】 どのようなところがよいと思ったのか、コメントしていただきたい。

【赤嶺委員長】 構成であるが、QRコードを多用している。市議会のいろいろな情報にすぐにアクセスできるようになっている。ホームページのトップに行きたいときはそのQRコードがある。過去の議会だよりが見たければバックナンバーのQRコードが記載されている。議会の主なトピックが抽出され、さらに議会の役職、政策討論会の案内も記載がある。一般質問はかなり多くの人が登壇している。分量は大和市議会と比べると少ないが、QRコードが各自振られており、要約の内容で興味のある人がQRコードを読むと、一般質問の録画映像につながる。興味がある人にとっては便利な形になっている。

必要な情報だけ記載されている。色分けして、読みやすくなるようにつくられている。

【金原副委員長】 30分一般質問をすると、8000から8500文字である。それを市議会だよりに写真、イラストを入れないと600字ぐらいになる。これからA4化にすることで、300文字ぐらいになる。自分の言いたいことをまとめることも大事だと思う。メリットが多いので、A4の自治体が多いと思う。岸和田市のようにQRコードを使っているところもあるが、高齢者に対しては、紙は残す形でサポートしていけばよいと思う。

【布瀬委員】 岸和田市の議会だよりを見て、読みたいとは思わない。他市で議会報について議論しているところは、写真を多用している。一般質問はQRコードで飛べばよいので、本当に読みたい方はそれでよいが、そうではなく、議会としてどういったことを取り組んでいるのか、どういったことが今回の委員会で議論になったという、議会としての

取組がもっと明確化されるような記事構成にして、手に取って読んでもらいやすくする内容の議論が必要だと思うので、広報委員会で内容を話し合いながら、形も考えていく。本委員会でA4化を話し合う必要があるのか疑問に思う。内容の議論も大事だということであれば、同時にやっていくべきではないかと思う。

【赤嶺委員長】 本委員会でA4化の話をするのは、提案があったからである。

【中村委員】 当時、議会報編集委員会の委員長を私が務めていたときに、その頃から議会だよりの改革という話があったが、誰も市民の話を聞いていないということで、アンケートを取るようになった。その後、何年もたつのに、それを参考にしながら、議会だよりの内容を刷新、改革しようという話は全く起こっていない。これまで内容について議論する時間はさんざんあったが、そのときに議論しなかった。今回、何でA4の話になっているかというと、議会だよりのA4化が議題に上がっているから、そのことを議論している。議会の内容を知らせる内容に変更しようみたいな議論は上がっていない。A4の話になったら途端に内容の話になる。形から入るのはおかしいというのはそのとおりであるが、形からではなくて、内容をもう一回見直して、今の議会だよりが議会の情報が分かりにくいから、もう少し分かりやすい内容に編集をし直そうという議題はどこの会派からも上がっていない。A4化の話になったら、それと関係づけてそういう話を出すのはおかしい。今はA4にするかどうかの議論をしている。内容云々のことを議論したかったら、そういう話をここに出すべきである。内容の話を先にするべきとしてA4化の話はここですべきでないという話は、論点から外れている。

【石田委員】 行政が配り方を変えていく中で、今まで議会だよりも一緒に配られていたが、合意ができなく、タブロイドのまま発行せざるを得ないとなった場合、混乱が生まれると思う。A4化にしていくことはメリットがあるので、まずは進めていく必要があると感じている。その中で内容をどうしていくかはこれから詰めていけばよいと思うが、その中で、このようにしていくという提案はあってよいと思う。その中でどう合意されていくかである。内容のことも含めて、この場で全会一致にして前に進めていくのは困難だと思うので、まずは行政が変わっていく中で、議会だよりもA4化していくという方向性はまず合わせて、その中で内容をどうしていくかに関してもしっかりと議論していくべきである。

事前に堀口委員から見せてもらったものは、クオリティーが高くて、心引かれるものがあった。実物を見ながらやらなければいけない。A4化を進めていくことは必要性に駆ら

れていることだと思うので、まずそこで合意していくのが必要だと思う。

【鳥淵委員】 直近の広報委員会でアンケートを取った話を聞いたり、他市議会の議会だよりを見た。中身については工夫していて、読みたいと感じるものもあった。A4化するという議題であるので、この方向性の中で進めるべきである。自治会の班長をやっているときに感じたが、配布となると、ほかのものもA4であるので、仕分けもしやすい。今後は業者に委託して全戸配布になるが、そこに違う形のものとがあると、配る人にとっては大変なことになると感じる。A4化をする中で、広報委員会を含めて、具体的に前向きな意見で、よいものができればよいと思う。

【布瀬委員】 ここで、A4にすることが全会一致で賛成となれば、どのような形にしていくかの議論は、広報委員会で行われるのか。

【赤嶺委員長】 それもまた皆さんと協議する。

【布瀬委員】 それをどこで話し合うかはここで協議して、広報委員会にお願いするか、どこで議論するかをここで決めていくのか。

【赤嶺委員長】 全会一致になればそのように考えているが、基本的な流れとしては広報委員会でやってもらったほうがよいのではないかな。

【堀口委員】 この議論は広報委員会の中でも行っていて、変えようと思っても予算が取れない中で、変えられることは限られている。タイトルを変えるだけでも何年もかかった。横にする、縦にするのも、試行錯誤をした上での最善が今の形だと思う。A4にすると文字数が少なくなると言われていた。この間、広報委員会の中で町田零二議員から、先進市の事例を見せていただいた。今日、狛江市のものを持ってきたが、見やすいし、これだったら手に取ってもよいと思った。議会の中のことだけではなく、ふだん議会がどのようなことをやっているのかも全部カラーで書かれている。反対討論、賛成討論に全部QRコードがついている。この量だったら、見て、興味があれば、QRコードで飛んでいくようにするのがよいと思う。議論の内容は、広報委員会の中でも調査を始めていたり、実際に狛江市に行って詳細を聞いてもよいと思う。狛江市の広報を見て、この内容であれば、大和市でもできるのではないかなと思うので、内容に関しては広報委員会でも詳細に詰めていければよいと思う。

【中村委員】 市議会議長会が編集している「地方議会人」という研修誌がある。その中の記事で、議会だより診断の連載が毎回あるので、そのシリーズを見るだけでも参考になる。タブロイド版ではできるが、A4判ではできない記事編集はないと思う。A4判の一

番よいところは、サイズが一緒であるので、ファイリングもしやすいし、持ち運びも便利で、手に取りやすく、見やすい。メリット、デメリットを考えたときには、A4判に変えて、A4の中で様々に努力して、先進市のよいところを取り入れて、内容のクオリティーを上げていけばよいのではないかと。A4化によって内容が薄くなることは避けられるのではないかと思う。

【布瀬委員】 A4で、字数が少なくなるから、内容が薄くなるとは思っていない。形の議論ではないということで言った。タブロイド版のほうがポスティングの費用もかさむのか。予算がどのぐらいになるか。A4でないとポスティングの費用はプラスになるのか。

【議事係長】 広報紙はA4判、議会だよりはタブロイド版である。議会だよりは自治会からの要望もあり、二つ折りにした納品となっており、広報紙と一緒に配布できる。タブロイドをA4にしたら幾らになるかという見積りは取っていないが、タブロイド版だから一緒に配布できないということではない。

作成について、現在、タブロイド版は8ページであるが、それをA4判にした場合、見開きであるので、A3、3枚を二つ折りにして12ページが紙面の面積としては一番近い。あくまでも現行業者の概算で今の条件で、単価3.4円ぐらいはA4判のほうが高い。紙面の総面積で言うと、タブロイド版8ページで載っているもののうちの1ページプラス3分の1ぐらいが減る。

タブロイド版のメリットとして費用は安い、A4判は、保存がしやすいとか、手に取って読みやすいというメリットがあるので、採用しているところも多い。

【布瀬委員】 ページ数を減らさない限りは同じ予算ではできないのか。今の予算でA4サイズをつくらうと思うと、単価を下げるためにはページ数を減らさない駄目なのか。

【議事係長】 同じような単価だとA4判、8ページであり、現在のタブロイド版と同じページ数で、大体同じぐらいの費用で、0.2円ぐらい上がる。

【木村委員】 最終的に、よいものがA4化してできないことには話にならないので、それを前提として、広報委員会でもんでもらいたい。それが無理であれば、来年度から1月1日号と6月1日号はやらないと決まっているので、場合によっては、広報やまことに全て丸投げして、必要なものだけ中に載せてもらったらよいのではないかという意見もある。A4化に反対するわけではないが、今までにない、よいものになるように持っていつてもらいたいということで、賛成したい。

【赤嶺委員長】 形ではなくて内容だという布瀬委員の意見も分かるが、形が決まらない

と内容も決まらない。紙面は限られているので、紙面を決めないと、何を載せるかが決められないのではないかと。そういったところからA4化にもつながっているし、A4化の議論が繰り返し行われてきたが、これまでは紙面の縮小とコストが増えることを懸念して、結論が出なくて、凍結という状況のまま放置されていたという経緯があるので、まずは形から変えていくことで進めていく形を取りたいと思うが、どうか。

【布瀬委員】 A4化にするには、紙面を減らしていかなければいけないことはよく分かった。これで内容の議論はかなり進むと思う。同じサイズではないということなので、どのようなものにしていくのかという議論を進めなければいけないので、議会だよりの内容が議論されていくことを期待して、神奈川ネットワーク運動としては賛成に変える。

【堀口委員】 狛江市のものは、2ページで1つになっているので読みにくいと思うが、そのままPDFを印刷するとこうになってしまう。実際は1ページずつある。

【赤嶺委員長】 狛江市の議会だよりは何ページか。

【堀口委員】 今配っているのは予算と決算なので20ページ、通常は16ページである。狛江市は古い感じであったが、何で刷新できたかという、議会が何をやっているのか分からないとか、文字が多過ぎて読む気にならないという市民の声があって、特に20代から40代、あまり議会に興味のない人たちに手に取って、見て、読んでもらうことをコンセプトにして、議員が話し合った結果、こういう形になったということなので、それなりの工夫がされていると思う。この内容だったら、字が小さくても、色分けでちゃんとしてあるので、見やすいのではないと思う。仕様を出すときも、環境に配慮した紙を指定したり、ホチキス留めしないとか、SDGsにもこだわって行っている。A4にしても中身の無い議会だよりのあるもので、こういうところを参考に、よりよいものをつくっていったらよいと思う。

【赤嶺委員長】 A4化については、ほぼほぼ皆さんの意見が集約できたかと思うが、中身の話をしておかないといけない。ページの分量を増やして内容を充実させると、コストももちろん上がる。コストを許容するかどうか。配付方法が変更になって、コストの増大を招いたことから、発行回数を減らして対応している現状がある。さらに、これからデジタル化に関する費用もかかってくるし、デジタル情報を中心に配布していくことに転換していく時期がこれから到来する。こうした中で、紙媒体の議会だよりにどこまでコストを割いていくのかを明確にしていく必要があると思う。狛江市は素晴らしい、とても読みやすい議会だよりのあるが、相当コストがかかっているのではないかと不安を感じている。

岸和田市の議会だよりはA4で印刷している。長野市はA3の1枚を4面で使ってA4化している。A4の最も安いコストがこの作成方法だと思う。

今回、タブロイド版からA4化をするに当たって、A4化したことでコストが増大することになれば、発行回数を減らすという話にもなりかねないので、できれば、作成コストと配布コストを検討していただいた上で、広報委員会に送りたいと思うが、意見はあるか。

【木村委員】 昨年度来、議会から、市の財政の問題を念頭に置いて、議会も市の行政をチェックしていくという話が盛んに出てきている。ほとんどの方が見ていないに近い状態だという話もあったが、それでは幾らA4にしようが、無駄金になってしまうので、極力、今の予算の範囲内で、あるいは多少はプラスになっても、市民の大半に見てもらえるような、すばらしいものができれば、A4がよいということであれば、許容の範囲内ではないかと思う。

【西田委員】 今の議会だよりの予算は幾らか。

【議事係長】 今年度は、各自治会等への配付費用は、広報やまとと一緒に配送してもらっているので、議会費としてはかかっている。自治会員への配付については、自治会で行っていただいているため、議会費はかかっていることから、配付費用は議会費としてはゼロである。作成、印刷費用が、今年度予算では387万7000円、大体400万円である。駅配架で、シルバー人材センターに委託しているのが5万円ほどである。

【西田委員】 全戸配布するとしたら、幾らになるのか。

【議事係長】 今、令和7年度予算に向けて、広報やまとと一緒に配布することで予算案を編成している。配布委託は新規に545万円ほどを見込んでいます。作成委託は印刷枚数が増えるので、単価は少し下がるが、60万円ほどの増、合わせて600万円強が議会費の議会だよりとしては増える見込みである。

【西田委員】 約600万円増額する中で、議会だよりにさらなる予算を割くのは、市の非常に厳しい財政状況を考えると、市民の理解はなかなか得られないと思うので、予算もきっちり考えながら、枚数、内容は考えていくべきだと思う。

【中村委員】 広報について言うと、市は無駄なことをやっていると思う。そこを削減すれば、市全体の予算とすれば、A4判になってお金が増えても、市全体の広報としては賄えると思う。議会ばかりがお金がかかるから出さないというのではなくて、市全体として考えてほしいと思う。

読んでもらうことについては議員側の熱意も必要で、以前、最終的に全会一致にならず実施はできなかったが、新しくできた市議会だよりを議員が駅で配ろうとしたこともあった。積極的にアピールして、市民の前で新しい議会だよりを読んでもくださいと言ったら、もらった人は読んでくれると思う。議会だけではなくて、市全体の広報にかかっている費用を見直せば、今回、A4化でお金が増えるとしても、全体としてはそんなにオーバーすることはないと思う。そういうこともトータルとして考えてほしい。

【石田委員】 今の費用は、臨時会号をなくしたことを勘案した数字なのか。

【議事係長】 臨時会号と正月号を削減することにより減らした金額である。

【石田委員】 市側が豊潤に情報を出して、一方で、市議会が情報環境が圧縮されるのが当たり前になっているので、全体のバランスも含めて議論していくべきだと思う。

【中村委員】 お金のことも考えつつ、内容のことも議論してもよいのではないかという話である。

【赤嶺委員長】 これから議会のデジタル化が進むので、デジタル化の関連予算も増える。デジタルで市民に提供する情報もこれからどんどん増えていく。こうした中で、紙媒体からしか情報にアクセスできないものにどれぐらいの予算をかけていくかは、真剣に考えていかなければいけないものだと思う。

【堀合委員】 議会だよりが議会として行う広報の中で、どれぐらいの部分を担うのかを考えなければいけないと思う。議会だよりは広報ではなく、単なる情報提供である。議会だよりに載せる情報は最低限でよいと思う。QRコードさえあれば、それだけでもよいぐらいの最低限のもので成り立つと思う。A3の1枚でよいぐらいだと思う。使うお金も最低限でよいと思う。ほかのことにお金を使ったほうが有効な広報ができると考える。

【赤嶺委員長】 これからデジタル化が進んでいくことで、紙媒体を必要としない状況が生まれてくると思う。議会もデジタル化を進めていくことで、タブレットの導入を進めているが、個別に自治体の労力を借りてお金をかけて発行した紙媒体を配ってもらっている状況をこのまま続けていくのかというと、改善する必要があると思う。

これをどうするかであるが、プッシュ式によりデータで市民一人一人に送ることがこれから可能になる。そのときに、今の紙媒体の資料をベースにして進めていくのか、それともデジタルに移行することを前提に進めていくのかでも大分差があるのではないかと、皆さんの議論を聞いていて感じたところである。

A4化については全員の合意が得られたと思う。配布コストも労力もかかっている。費

用が600万円の増としてかかってくる。A4化するに当たって、これまで以上に発行コストを増加してもよいという会派はどのくらいあるか。単純に言えば、紙面が多ければコストは高くなる。

【石田委員】 A4にしたらコストは増加するのか。

【赤嶺委員長】 事務局の説明では、タブロイド版と一番近いのがA4の12ページ、それだと予算が高くなる。今と同じぐらゐのコストで発行するとすると8ページである。

コストが増大しても12ページで発行したほうがよいと思う会派、もしくは現状と同等のコストで発行したほうがよいと思う会派、コストを削減してページ数を減らして発行したほうがよいと思う会派、この3点、考えを伺いたい。

【堀口委員】 日本共産党としては、A4化だけで、紙面の内容もそこまで話し合っていない。紙面に関しては現状でも60万円で、何がかかると言ったら配布コストである。今までかかっていなかったのを、議会が負担しなければいけないところは、しょうがないというか、出さざるを得ない経費なわけで、その中で何とかしろというのは難しいのではないかというのが率直な思いとしてある。

【木村委員】 自由クラブとしては、現状の予算の範囲内であれば、A4化に賛成である。議会だよりは現状ではあまり見られていないが、A4化によって非常に見やすくなって、過半数の市民が関心を持って見ていただけるものを努力してつくっていただくのであれば、多少の予算のアップは許されると思う。

【赤嶺委員長】 A4化でコストアップしてもよいか。

【木村委員】 多少のアップは許されてもよいのではないかと思う。

【鳥淵委員】 公明党としては、会派に持ち帰って、意見を聞きたいと思う。実際に、配布費用はかかるが、市としての自治会の負担金が数万円減らされる。150ある自治会にそれぞれ世帯数に応じて変わってくる。そこが逆に市はお金がかからないようになる。予算をかけるべきだと言っているのではないが、時代の流れの中で、1年、2年でどんどんデジタル化は進んでいくと思う。紙が要らない時代がすぐそこに来ていると思うが、急にはならないので、段階を踏んで、今回、A4化にする中で、最低でも今までと同等の予算の中で、また、その次は少し減らしてとか、もっとデジタル化してというように進めていけばよいのではないかと思う。

【布瀬委員】 タブロイド版からA4にした場合の作成料が、プラス60万円になるのか。

【議事係長】 A4で8ページのほうが、現状のタブロイド8ページよりも単価として税抜きプラス0.2円ぐらい上がる。

【布瀬委員】 A3の紙1枚が増えるごとに幾らプラスになるのか。

【議事係長】 あくまでも概算で、4ページから8ページ、8ページから12ページになるに当たって、それぞれ4ページ増えるごとに3.2円ぐらいである。

【布瀬委員】 何万部作成するのか。

【議事係長】 全戸配布になるに当たって、11万5500部である。

【石田委員】 虹の会として、内容もあつてのことであるが、必要であれば、費用を上げていくことは仕方ないと考えている。紙媒体はまだ力を持っていると思う。紙でないと見ない人はまだ一定数いるので、そういう状況の中で、議会が紙媒体をつくっていくことは大きなことだと思う。議会がちゃんと情報を出して、影響力を持っていく、行政に対するチェック機能を発揮することがもたらしてくる行政の無駄、おかしいことに関しての抑制機能が働くことに効果があると思う。情報を市民に伝えることを体制として持つておくことは重要なことであるし、それに対して行政が一定の予算を担保させることは、二元代表制を考える上でも極めて重要なことだと捉えている。今回、市で広報の出し方が変わってくることに伴って、A4化にする中で、コスト増が一定見られることは分かるが、しっかりと内容を詰めて、必要性を合意形成しながら、予算を考えていくことが必要だと思う。

【中村委員】 議会だよりそのものだけではなく、配布にかかるお金もあると思う。部数も、デジタル化で、紙媒体の議会だよりは遠い将来的にはなくなると思う。当面、紙でないと見ない人もいるし、手元に置いて後で見やすいこともあるので、いきなりなくすことはできない。これまでは自治会に委託していたが、全戸配布すると、相当の金額である。全戸配布する必要があるかも考えなければいけないし、いろいろまだ議論しなければいけない。今回、A4化について合意できたことは大きな一歩だと思う。予算も限られたものであるのもう少し議論をする必要があると思う。

【金原副委員長】 デジタル技術が進んでいくが、デジタルディバイドの部分がある。デジタルディバイドの人たちにも情報を知ってもらうことが大事だと思うので、その辺も考えて、予算はきっちり考えながら、段階的に完璧なデジタル化に持っていければよいのかと思う。

【赤嶺委員長】 議会だよりのA4化については、反対の会派はないということではよいのか。

全員賛成

【赤嶺委員長】 A4化については全会一致である。

今、コストの話をしたが、コストについて、次回、会派の意見を取りまとめた上で、再度、協議を行いたい。

発行費用についてどうするかまでしっかり決めて広報委員会に送らないと、広報委員会で結論が出ないで、また差戻しになる可能性があるので、そこまでしっかり本委員会で決めた上で広報委員会に送りたいと思う。

その判断の仕方であるが、コストアップを容認するか、現状維持か、コストダウンを図るかの3点のうちから、各会派の意見、判断をいただきたい。

先ほど事務局が述べた、A4化を行った際のページ数ごとのコストのデータを事務局から各委員に送付する。

【中村委員】 広報やまとと議会だよりは性質が違うと思う。広報やまとは、いろいろな手段を踏まえて市民に確実に届けなければいけないが、議会だよりの内容は知らなくてもよい話である。ある意味、民主主義のコストである。私たちとしては知ってほしいが、我々議会として積極的にそれを知らせたいという気持ちがあるかどうかだと思う。

午後3時28分 休憩

午後3時29分 再開

【西田委員】 令和7年度に向けて議会費の予算はどのぐらいの増を見込んでいるのか。

午後3時30分 休憩

午後3時31分 再開

【西田委員】 先ほどの質疑を変更する。

今後、タブレット関連の予算は幾らぐらいの増額を見込んでいるのか。

【総務係長】 5年間で約2000万円の増額を見込んでいる。

【西田委員】 インフラにお金がかかる中で、広報の費用も全体の議会費の中での話なの

で、そういった観点で、広報紙ありきではなくて、全体の予算の中でもきちんと議論されるべきだと思う。

【赤嶺委員長】 議会だよりのA4化については全会一致となった。よって、発行費用について、各会派で意見をまとめてきて、次回、再度協議することによいか。

異議なし

【赤嶺委員長】 それでは、そのように決定する。

日程3 今後の進め方、協議を行う事項について（資料2、3）

【赤嶺委員長】 今後の進め方、協議を行う事項について、事務局に説明を求める。

【議事係長】 前回、昨年12月4日に開催された本委員会において、委員長から、次回以降の進め方について意見のある会派は、12月定例会中に事務局に提出いただきたい旨の話があった。

資料2を御覧いただきたい。各会派から12月定例会中に提出いただいた、今後の進め方、協議を行いたい事項について、会派別に取りまとめたものである。

資料3を御覧いただきたい。今回の本委員会の協議事項を一覧で取りまとめたものである。

委員長は、これらの資料を基に、今後の進め方、協議を行う事項について、本日協議をされたいとのことである。

【赤嶺委員長】 事務局から説明したとおり、今後の進め方、協議を行う事項について、皆様から説明いただきたい。

資料2に関連する各会派の意見について、内容の説明を願う。

【村田委員】 大和維新×iRAISEとしては、委員会視察へのオンライン参加と書いたが、職員も含めて、負担を軽減して、例えば、現地集合・現地解散にする等も含めて、もっと簡略化してよいのではないかという趣旨である。

【堀合委員】 立憲民主党としては、議会改革を何のために行うのか考えた場合に、よりよい議会にするためには、一人一人の議員の能力の向上が必要である。それを何よりの優先課題と考える。議会改革において、それが行えるよう、一つ一つを検討するべきだとい

う考えの下、一般質問は、議員が言いたい放題で終わってしまっているのです、反論されることがないと、よい質問も生まれません、議員の議論の能力も向上しないだろうということで、反問権の付与を提案している。

2つ目は、勉強会、政策立案のための検討会等の設置は行ったほうがよいだろうということである。

3つ目は、委員会視察については要らないということ踏まえて考えなければいけない。委員会が何の役に立っているのかということをはっきりと考えなくてはならない。

さらに、議員に誰になるかということ考えた場合、潜在能力、資質の高い人間が当然ならなければいけないことを考えた場合に、給与が安いので、よい人が議員にならないという現状があると思うので、議員報酬引上げ、そのためには定数は削減しなければ費用は捻出できない。

タブレット導入は、財政が逼迫しているのだったら、考え直してもよいのではないかとということである。

【石田委員】 虹の会としては、進め方については、原則的なことを書いた。

優先検討事項であるが、一問一答など、各会派から多く声が上がっているものがあるので、それを優先的に検討していくのが民主的というか、進めやすいのではないかと思うので、そのように書いてある。

予算決算特別委員会が優先事項に既に挙がっているので、目的として合意されているが、違法性が指摘される状態の解消であるので、最低限これは必要だろうというものを書いた。これは座間市がやっているもので、今の常任委員会への分割付託は課題があるので、予算決算常任委員会をつくって、そこから各分科会に分けていくということであれば、違法性に関してはクリアできるので、こういった形で提案した。

【布瀬委員】 神奈川ネットワーク運動としては、進め方は、各会派からの意見が多いものから優先的に議論していくべきではないかと思う。その中では、一般質問の一問一答、議会として、政策立案ができるように、その力を強化していくためにも、超党派で政策研究会のような政策立案に向けたものができる場をつくっていくべきだと考えている。

委員会のオンライン化も協議したい。

【堀口委員】 日本共産党としても、どうしても時間がかかっていくものだと思うので、8会派のうち5会派が一問一答なので、そういったところから優先的に協議していくことが必要だと思う。議論が進められるところは進めていって、実行可能なものはすぐ実行に

移していくところで進めていったらよいのではないかと思う。

【木村委員】 自由クラブとしては、一般質問での一問一答方式を選択可能にするということである。

時間は答弁を含めて30分とする。

反問権を行政側にも付与する。

対面演壇（簡易なものも含む）を設置する。前列の真ん中の4席あたりを空けて、そこを対面式の場所に、簡易なものを置いて、即できるような形にする。実施しようと思えば、特別お金もかからないので、その方法を具体的に示した。

一問一答を選択することになれば、おのずと再質問の通告制、質問回数の制限もなくなってくるということで、次の段階でやるのはこの辺が一番よいのではないかということである。

【鳥渕委員】 公明党としては、これまでどおり、昨年から協議していくべきだと記載した、今日の資料3にあるものに加えて、今日の資料2の記載の内容も協議をしていただきたい旨を書いた。

【中村委員】 自民党・新政クラブとしては、本会議関係で、一般質問に関しては、多くの会派が言っているが、随分長い間話し合っていて、なかなか結論が出ないが、一問一答方式を採用することと、そうすると、当然反問権の問題も出てくる。自席マイクがないので、一問一答方式を採用すると、議会の中の設備、自席マイクを採用するのか、質問席をつくるのか分からないが、いずれにしても、何らかの設備を整えないと対応できないので、そういうことを検討していく。質問時間についても、今は質問が30分で、それに対して答弁部分の時間制限はないが、それも今のままでよいのか、多くの議会が採用しているような、答弁も含めて1時間としたほうがよいのか、その辺も検討していったほうがよいのではないか。

代表質問は、過去に1回程度行われたことがあるが、あまりうまくいなくて、なくなったが、それは代表質問が駄目だったのではなくて、代表質問のやり方が駄目だったと思う。代表質問がよく分かっていなかった。代表質問は、3月定例会で、市長からの施政方針演説について各会派が質問するものである。これについては、ある程度の規模の議会はどこも行っている。大和市はこれだけの会派制を取っているので、代表質問についても検討したい。

【赤嶺委員長】 今回、皆さんから説明いただいたので、次回は、どのように議会改革を

進めていくか中身の議論を行うことでよいか。

異議なし

【赤嶺委員長】 それでは、そのように決定する。

次回の日程調整を行いたい。

午後 3 時 4 5 分 休憩

午後 3 時 4 7 分 再開

【赤嶺委員長】 それでは、本日予定していた協議が終了したので、本日の協議はここま
でとする。

次回の日程は、2 月 7 日、金曜日、午前 9 時から出席をお願いする。

午後 3 時 4 8 分 閉会